

BELLUNA

証券コード：9997

INTERIM BUSINESS REPORT



お客様の衣食住遊を豊かにする

株式会社ベルーナ

第48期

中間株主通信

2023年4月1日～2023年9月30日





先行き不透明な状況が続くものの、
個人消費・設備投資は回復傾向。
インバウンド需要に応えるプロパティ事業を中心に、
データベース活用事業、化粧品健康食品事業で
前年同期を上回る売り上げを達成。

代表取締役社長 安野 清

当社グループを取り巻く市場環境

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い経済活動の正常化が進展するなか、国内の個人消費や設備投資は回復傾向となりました。一方で円安の進行や原材料・エネルギー価格の高騰、高止まりなどにより物価上昇が進行しており、先行きが不透明な状況が続いております。

当期の概況

当第2四半期連結累計期間の売上高は961.1億円（前年同期比2.7%減）となり、営業利益は31.0億円（同16.1%減）となりました。経常利益は43.3億円（同7.4%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、投資有価証券売却益が発生したことなどにより32.6億円（同14.5%増）となりました。

財政状況に関しまして、流動資産は、前連結会計年度末比53.9億円増加し、1,280.6億円、固定資産は、前連結会計年度末比42.6億円増加し、1,671.9億円となりました。この結果、資産合計は、前連結会計年度末比96.6億円増加し、2,952.5億円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末比111.9億円減少し、534.0億円、固定負債は、前連結会計年度末比142.7億円増加し、1,088.4億円となりました。この結果、負債合計は、前連結

計年度末比30.8億円増加し、1,622.4億円となりました。

一方、純資産は、前連結会計年度末比65.7億円増加し、1,330.1億円となりました。この結果、自己資本比率は44.7%となりました。

当期の進捗

当社グループはアパレル・雑貨事業、化粧品健康食品事業、グルメ事業、ナース関連事業、データベース活用事業、呉服関連事業、プロパティ事業、その他の事業の8セグメントの強化に取り組んで参りました。

「アパレル・雑貨通販事業」では、アパレル・雑貨通販事業において、円安の影響、原材料や資材の価格高騰を受け仕入原価が上昇したため、商品価格の見直しや紙媒体における発行量の抑制を行いました。商品の値上げにより受注単価は上昇したもののレスポンスは鈍化傾向となりました。また、紙媒体の発行量を抑制したため新規顧客の獲得が減少し、稼働顧客数も減少傾向となりました。この結果、売上高は348.2億円（同18.1%減）となり、セグメント損失は13.4億円（前年同期は0.3億円のセグメント損失）となりました。

「化粧品健康食品事業」では、化粧品通販事業において、国内のECを中心とした新規顧客獲得効率が好調に推移したため増収となりました。一方で、成長性を重視し積極的に広告展

財務ハイライト（連結）

売上高	961.1億円（前年同期比2.7%減）
営業利益	31.0億円（前年同期比16.1%減）
経常利益	43.3億円（前年同期比7.4%減）
親会社株主に帰属する 四半期純利益	32.6億円（前年同期比14.5%増）

開を行ったため減益となりました。健康食品通販事業においては、既存主力商品に絞った効率性重視の広告展開を行ったため減収となったものの利益率が改善し増益となりました。この結果、売上高は74.5億円（同0.5%増）となり、セグメント利益は4.1億円（同31.7%減）となりました。

「グルメ事業」では、グルメ通販事業において、外食・外飲み回帰傾向の影響により売上の伸びが一服。また、円安の影響、原材料や資材の価格高騰を受け仕入原価が上昇したため、一部商品価格の見直しを行いました。この結果、売上高は127.1億円（同0.0%減）となり、セグメント損失は1.0億円（前年同期は2.2億円のセグメント利益）となりました。

「ナース関連事業」では、看護師向け通販事業において、新型コロナウイルス感染症拡大時に増加した特需顧客向けの紙媒体発行を抑制するなど、広告宣伝費の適正化を行い、収益性確保を優先した事業運営を行いました。この結果、売上高は67.3億円（同11.3%減）となり、セグメント利益は3.7億円（同114.5%増）となりました。

「データベース活用事業」では、封入・同送サービスにおいて、新規クライアントの獲得強化や新たなサービス展開は順調であったものの、アパレル・雑貨事業におけるカタログ発行数及び商品出荷件数の減少により減収減益となりました。フル

1株当たり配当金の推移



フィルメント受託サービスにおいては、人件費等のコストが上昇したものの新規クライアントの増加などにより増収増益となりました。ファイナンス事業においては、新規顧客獲得の拡大により増収増益となりました。この結果、売上高は82.0億円（同9.7%増）となり、セグメント利益は25.5億円（同10.3%減）となりました。

「呉服関連事業」では、和装販売事業において、不採算店舗の撤退を行ったこと、既存店舗の来客数は増加したものの購入単価の下落があったことなどにより減収減益となりました。一方で、(株)さが美、(株)東京ますいわ屋における構造改革が引き続き浸透し、収益性の改善が図られました。また、衣裳レンタル事業においては、卒業式袴の早期受注会の実施による大幅な受注増に伴い、受注経費の増加が発生しました。この結果、売上高は104.0億円（同6.7%減）となり、セグメント損失は1.9億円（前年同期は1.4億円のセグメント損失）となりました。

「プロパティ事業」では、ホテル事業において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動制限や外国人の入国規制が緩和された影響から旅行や出張による宿泊需要が回復し、既存ホテルの稼働率や客室単価が改善しました。また国内新規稼働ホテルが加わったことなどにより、大幅な増収増益となりました。この結果、売上高は143.1億円（同70.8%増）となり、セグメント利益は17.5億円（同370.5%増）となりました。

アパレル・雑貨事業

- ・ミセス層中心のカatalog、ネット通販
- ・モール展開 (RyuRyumall)
- ・ネット専業通販 (ミン・アイシーネット・丸長・セレクト)
- ・アパレル店舗 (BELLUNA)



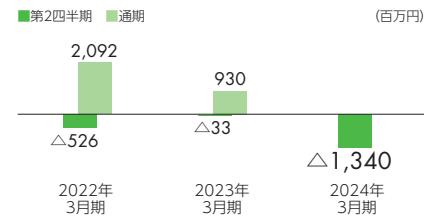
売上高

348.2億円 (前年同期比18.1%減)



セグメント利益

△13.4億円 (前年同期は0.3億円のセグメント損失)



アパレル・雑貨通販事業においては、商品価格の見直しや紙媒体における発行量の抑制を行いました。商品の値上げによりレスポンスは鈍化傾向となり、紙媒体の発行量抑制によって稼働顧客数も減少傾向となりました。この結果、売上高は348.2億円 (同18.1%減) となり、セグメント損失は13.4億円 (前年同期は0.3億円のセグメント損失) となりました。

化粧品健康食品事業

- ・化粧品通販 (オージオ・なちゅライフ)
- ・健康食品通販 (リフレ)



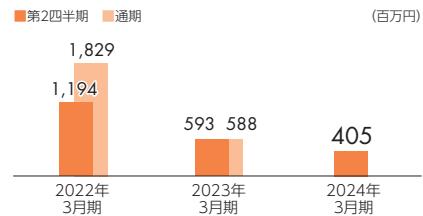
売上高

74.5億円 (前年同期比0.5%増)



セグメント利益

4.1億円 (前年同期比31.7%減)



化粧品通販事業においては、新規顧客獲得効率が好調に推移し増収となった一方で、積極的に広告展開を行ったため減益となりました。健康食品通販事業においては、効率性重視の広告展開を行い減収となったものの利益率が改善し増益となりました。この結果、売上高は74.5億円 (同0.5%増) となり、セグメント利益は4.1億円 (同31.7%減) となりました。

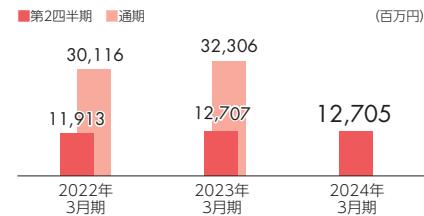
グルメ事業

- ・食品通販、日本酒通販
- ・ワイン通販



売上高

127.1億円 (前年同期比0.0%減)



セグメント利益

△1.0億円 (前年同期は2.2億円のセグメント利益)



グルメ通販事業においては、外食・外飲み帰帰傾向の影響により売上の伸びが一服。また、円安の影響、原材料や資材の価格高騰を受け仕入原価が上昇したため、一部商品価格の見直しを行いました。この結果、売上高は127.1億円 (同0.0%減) となり、セグメント損失は1.0億円 (前年同期は2.2億円のセグメント利益) となりました。

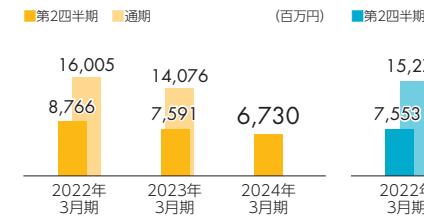
ナース関連事業

- ・看護師向け通販 (ナースリー・アンファミエ)
- ・看護師人材紹介 (ナースキャリアネクスト・JOB STUDIO)



売上高

67.3億円 (前年同期比11.3%減)



セグメント利益

3.7億円 (前年同期比114.5%増)



看護師向け通販事業においては、新型コロナウイルス特需顧客向けの紙媒体発行を抑制するなど、収益性確保を優先した事業運営を行いました。この結果、売上高は67.3億円 (同11.3%減) となり、セグメント利益は3.7億円 (同114.5%増) となりました。

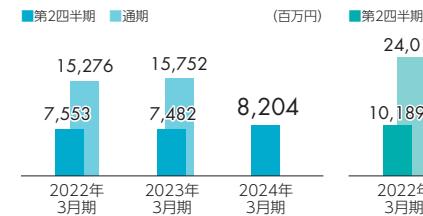
データベース活用事業

- ・封入・同送サービス (ペルーナダイレクト)
- ・通販代行サービス (BBS)
- ・会員向けファイナンス事業 (ペルーナノータス)
- ・物流3PL事業 (BGL・レーベル)



売上高

82.0億円 (前年同期比9.7%増)



セグメント利益

25.5億円 (前年同期比10.3%減)



封入・同送サービスにおいては減収減益となったものの、フルフィルメント受託サービス、ファイナンス事業において新規顧客獲得の拡大などにより増収増益となった結果、売上高は82.0億円 (同9.7%増) となり、セグメント利益は25.5億円 (同10.3%減) となりました。

呉服関連事業

- ・和装店舗 (BANKANわものや・さが美・東京ますいわ屋)
- ・ホテル事業
- ・大学生の卒業式袴レンタル (マイム)
- ・太陽光発電事業・地熱発電事業



売上高

104.0億円 (前年同期比6.7%減)



セグメント利益

△1.9億円 (前年同期は1.4億円の損失)



和装販売事業においては、不採算店舗の撤退などで減収減益。一方、(株)さが美、(株)東京ますいわ屋における収益性の改善、衣裳レンタル事業の受注増に伴い、売上高は104.0億円 (同6.7%減) となり、セグメント損失は1.9億円 (前年同期は1.4億円の損失) となりました。

プロパティ事業

- ・不動産事業 (オフィスビルなどの賃貸・開発・販売)
- ・ホテル事業
- ・太陽光発電事業・地熱発電事業



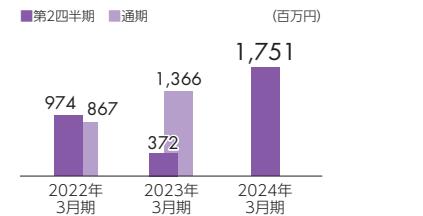
売上高

143.1億円 (前年同期比70.8%増)



セグメント利益

17.5億円 (前年同期比370.5%増)



ホテル事業において、既存ホテルの稼働率や客室単価が改善しました。また国内新規稼働ホテルが加わったことなどにより、大幅な増収増益となりました。この結果、売上高は143.1億円 (同70.8%増) となり、セグメント利益は17.5億円 (同370.5%増) となりました。

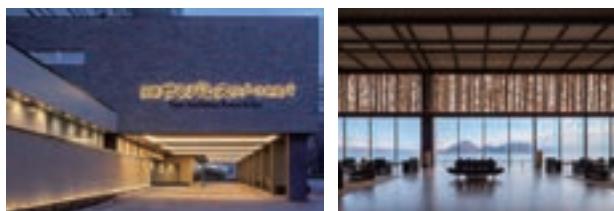
北海道の大自然をのぞむ洞爺・阿寒のリゾートホテル 「洞爺サンパレス リゾート&スパ」「ザ・レイクスweet湖の栖」 及び「ニュー阿寒ホテル」運営開始

2023年9月1日、北海道・洞爺湖にあるリゾートホテル「洞爺サンパレス リゾート&スパ」及び「ザ・レイクスweet湖の栖」、阿寒湖にあるリゾートホテル「ニュー阿寒ホテル」の運営を行う株式会社グランベル北海道の全株式を取得し、当ホテルの運営を開始いたしました。

北海道は将来的に国内外からのお客様が増加していくことが見込まれます。ベルーナグループの一員となった当ホテルにおいても、“お客様の衣食住遊を豊かにする商品やサービスの提供”という経営理念の下、すべてのお客様にご満足いただけるワンランク上のサービスのご提供に取り組んで参ります。

洞爺サンパレス リゾート&スパ

「洞爺サンパレス リゾート&スパ」は、北海道・洞爺湖温泉最大のリゾートホテルです。全324室の客室は、すべて湖側のレイクビューとなっており、洞爺湖の美しい景色を眺望できます。温泉は、湖と一体となる露天風呂やジャグジー、寝湯、サウナなど多彩な浴槽をご用意。屋内にはプールを中核としたお子様から大人まで楽しめるウォータースライダーを完備しています。レストランでは、海の幸・山の幸から旬の食材をふんだんに使用したお料理の数々を楽しめます。



ザ・レイクスweet湖の栖

「ザ・レイクスweet湖の栖」は、洞爺湖との一体感を満喫できるインフィニティ設計の温泉が自慢のハイグレードホテルです。全80室の客室には、温泉露天風呂・テラスを完備しています。最上階の露天風呂は、湖に向かって突き出た構造となっており、湖上に浮かんでいるような至福の時間を満喫できます。レストランは、湖の最も近くに位置し、水盤の視覚効果により洞爺の自然に溶け込む空間となっています。



ニュー阿寒ホテル

「ニュー阿寒ホテル」は、神秘的な湖「阿寒湖」のほとりに佇むリゾートホテルです。全370室の客室は、森や湖の美しい自然に囲まれており、心地よい非日常のひとときを堪能できます。温泉は、インフィニティ・エッジの露天風呂や、地上30mから雄大な景色をのぞむことができる展望大浴場など癒しの空間をご用意。レストランでは、北海道産の食材にこだわった四季折々のメニューで彩り豊かなビュッフェや和食席を楽しめます。



ベルーナ「吉見ロジスティクスセンター」を増築 約3万坪を増設し、2023年8月より稼働開始



吉見ロジスティクスセンター増築棟 概要

所在地	: 埼玉県比企郡吉見町西吉見南部地区
敷地面積	: 23,051㎡ (6,973坪)
計画延床面積	: 98,350㎡ (29,751坪)
稼働開始時期	: 2023年8月
総投資額	: 約130億円

埼玉県比企郡吉見町の物流センター「吉見ロジスティクスセンター」を増築し、2023年8月より稼働開始いたしました。

同センターは、物流機能の強化を目的として2014年8月より稼働を開始。「通販事業での外部倉庫在庫の集約による倉庫費用削減」「ベンダー物流の引込みによる商品横持ち費用の削減」「物流受託事業のキャパシティ拡大」などを目的に、2021年11月より着工いたしました。

増築棟では、自家消費太陽光発電設備を導入し、経済産業省より「エネルギー利用環境負荷低減事業適応計画」の認定を取得しており、購入電力の非化石化の取り組み等を通じて、付加価値の創出と炭素生産性の向上を図ります。

業歴170年以上の歴史を有し、数々の受賞歴を誇る 酒造会社「谷櫻酒造有限公司」を子会社化

2023年6月30日、清酒・その他醸造酒・副産物の製造販売事業を展開する、谷櫻酒造有限公司の全株式を取得し子会社化いたしました。

谷櫻酒造は、創業1848年より170年以上の歴史を持ち、八ヶ岳南麓の豊かな自然と清らかな湧水の恵みから酒造に適した風土に蔵を構える、地域に長く愛され山梨県でも有数の知名度を持つ酒蔵です。生酛造りによる風合い豊かな酒造りを行っており、英国ロンドンで創設された世界的に権威のあるアルコール品評会「IWSC」にて数々の受賞歴を有する銘柄を持っています。

今後、自社ブランドでの日本酒開発、グルメ日本酒事業におけるブランド価値向上等、日本酒事業の成長の可能性を拡大させ、企業価値を一層高められるよう努めて参ります。



谷櫻酒造有限公司

代表	: 浅野 福太郎
所在地	: 山梨県北杜市大泉町谷戸2037
事業内容	: 清酒・その他醸造酒・副産物の製造販売
資本金	: 7百万円
売上高	: 92百万円 (2022年6月期)



当社では、株主の皆様からの日頃のご支援に対する感謝の気持ちを込めまして、株主優待制度をご用意しています。**1「優待割引券、優待ポイント」**または**「自社取扱商品」**及び**2「ベルーナグループが運営及び提携するホテル、飲食店、小幡郷ゴルフ倶楽部、SPA & SAUNA コリドーの湯で使用できる優待割引券」**をご利用いただけます。内容やご利用方法をご確認の上、ぜひご利用いただければ幸いです。今後とも、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株主優待内容

1「優待割引券、優待ポイント」または「自社取扱商品」から選択

1 当社運営の通信販売で使用できる優待割引券



2 ベルーナオンラインストアで使用できる優待ポイント



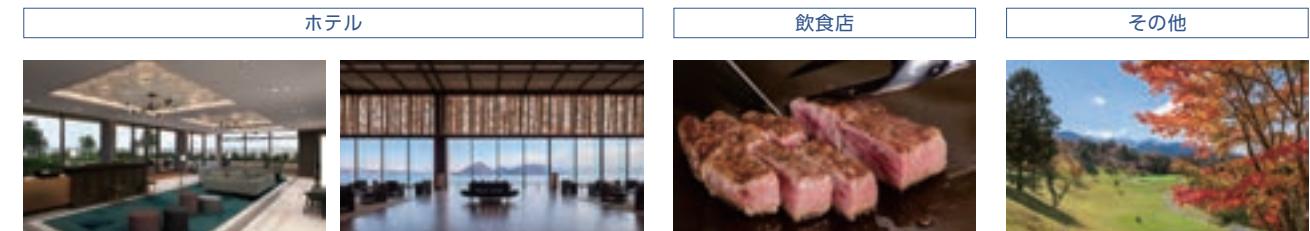
3 自社取扱の食品またはワインまたは日本酒



※お届け時期については株主様ご優待券をご参照ください

保有株式数	優待の内容 優待割引券、優待ポイントまたは自社取扱商品から選択
100株以上500株未満	① 1,000円分の通信販売優待割引券 ② 1,000円分の優待ポイント ③ 1,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒
500株以上1,000株未満	① 3,000円分の通信販売優待割引券 ② 3,000円分の優待ポイント ③ 3,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒
1,000株以上	① 5,000円分の通信販売優待割引券 ② 5,000円分の優待ポイント ③ 5,000円相当の自社取扱の食品またはワインまたは日本酒

2「ベルーナグループが運営及び提携する国内全ホテル、飲食店、小幡郷ゴルフ倶楽部、SPA & SAUNA コリドーの湯で使用できる優待割引券」から選択



GINZA HOTEL by GRANBELL 洞爺サンパレス リゾート&スパ

- ・洞爺サンパレス リゾート&スパ (北海道)
- ・ザ・レイクスweet湖の栖 (北海道)
- ・ニュー阿寒ホテル (北海道)
- ・定山渓ビューホテル (北海道)
- ・札幌グランベルホテル (北海道)
- ・すすきのグランベルホテル (北海道)
- ・山の神温泉優香苑 ※ (岩手)
- ・裏磐梯レイクリゾート (福島)
- ・ルグラン日軽井沢 (長野)
- ・ルグラン軽井沢ホテル&リゾート (長野)
- ・那須塩原ステーションホテル ※ (栃木)
- ・渋谷グランベルホテル ※ (東京)
- ・赤坂グランベルホテル ※ (東京)
- ・新宿グランベルホテル ※ (東京)
- ・恵比寿ホリックホテル ※ (東京)
- ・目黒ホリックホテル ※ (東京)
- ・赤羽ホリックホテル ※ (東京)
- ・京都グランベルホテル (京都)
- ・京都グランベルホテルhanareya (京都)
- ・大阪グランベルホテル (大阪)
- ・梅田ホリックホテル (大阪)
- ・ホテル浜比嘉島リゾート (沖縄)
- ・GINZA HOTEL by GRANBELL (東京)

※提携ホテル

保有株式数	優待の内容
100株以上500株未満	券面額 1,000円の割引券 2枚
500株以上1,000株未満	券面額 1,000円の割引券 6枚
1,000株以上	券面額 1,000円の割引券 10枚

※ご利用は現地決済に限り、事前決済は適用不可となります。
 ※ご利用方法は「株主様ご優待券」冊子のP10をご覧ください。

- 銀座のステーキ
- ・銀座のステーキ 銀座本店 (東京)
 - ・銀座のステーキ 銀座中央店 (東京)
 - ・銀座のステーキ 渋谷店 (東京)
 - ・銀座のステーキ 恵比寿店 (東京)
 - ・銀座の蕎麦屋 (東京)
 - ・銀座焼肉 にく崎 (東京)
 - ・鉄板料亭 銀座まつさか (東京)

- 小幡郷ゴルフ倶楽部 (群馬)
- SPA & SAUNA コリドーの湯 (東京)
- ・小幡郷ゴルフ倶楽部 (群馬)
 - ・SPA & SAUNA コリドーの湯 (東京)

発送時期・有効期限

	発送時期	有効期限
期末	6月下旬	7月1日~12月31日
中間	12月上旬	12月1日~6月30日

対象となる株主様

毎年3月末及び9月末の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様

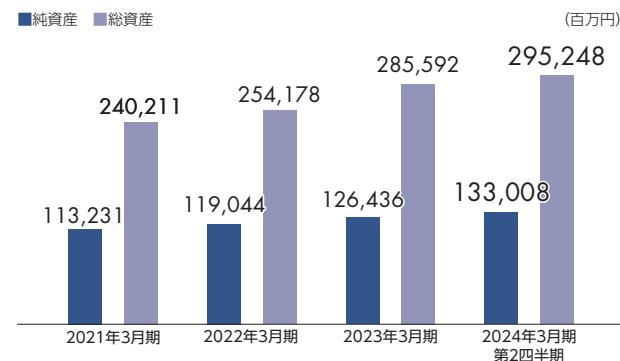
売上高



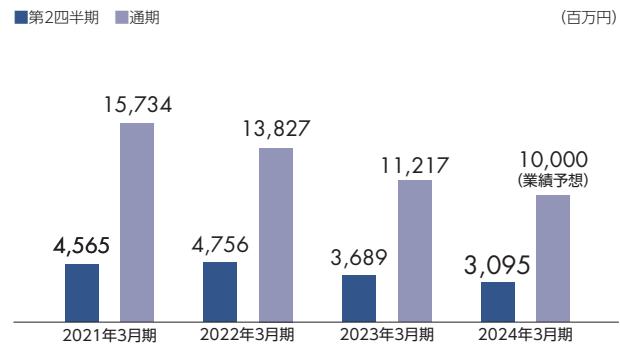
親会社株主に帰属する四半期純利益



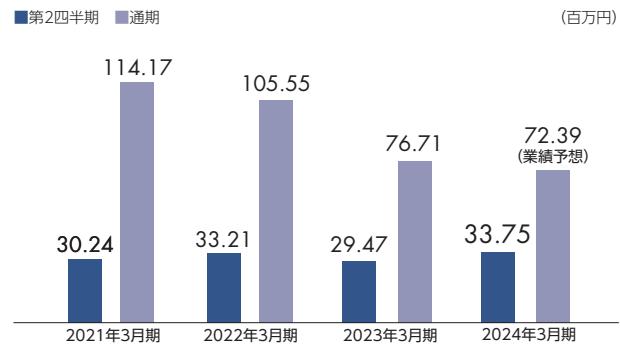
総資産・純資産



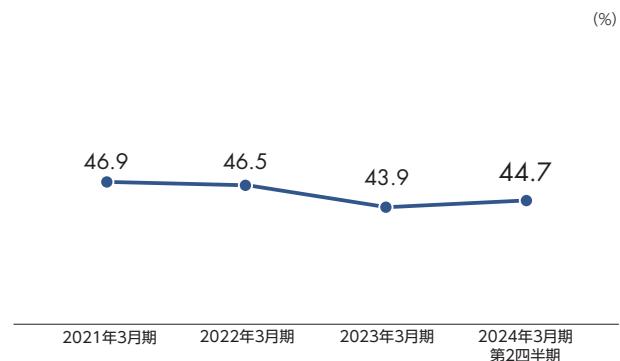
営業利益



1株当たり四半期純利益



自己資本比率



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 2023年3月31日現在	当第2四半期 連結会計期間 2023年9月30日現在
資産の部		
流動資産	122,664	128,055
固定資産	162,928	167,192
有形固定資産	129,495	133,377
無形固定資産	10,574	11,054
投資その他の資産	22,857	22,760
1 資産合計	285,592	295,248
負債・純資産の部		
流動負債	64,587	53,396
固定負債	94,568	108,842
2 負債合計	159,155	162,239
株主資本	129,765	132,068
資本金	10,612	10,612
資本剰余金	10,951	10,950
利益剰余金	108,663	110,960
自己株式	△462	△455
その他の包括利益累計額	△4,268	△163
非支配株主持分	940	1,104
3 純資産合計	126,436	133,008
負債純資産合計	285,592	295,248

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

POINT

1 資産合計

前期末に比べ9,655百万円増加しました。これは主に、流動資産において営業貸付金、商品及び製品、その他流動資産が増加したこと、固定資産において建設仮勘定が減少した一方で、建物及び構築物、機械装置及び運搬具、リース資産が増加したことによるものです。

2 負債合計

前期末に比べ3,083百万円増加しました。これは主に、流動負債において電子記録債務、短期借入金、未払費用が減少した一方で、固定負債における長期借入金、リース債務が増加したことによるものです。

3 純資産合計

前期末に比べ、6,572百万円増加しました。この結果、自己資本比率は44.7%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2022年4月1日～ 2022年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2023年4月1日～ 2023年9月30日
売上高	98,779	96,105
売上総利益	59,202	58,935
販売費及び一般管理費	55,513	55,839
営業利益	3,689	3,095
営業外収益	1,473	1,734
営業外費用	491	504
経常利益	4,671	4,325
特別利益	2	665
特別損失	99	5
税金等調整前四半期純利益	4,574	4,985
法人税、住民税及び事業税	1,731	1,569
法人税等調整額	△16	134
四半期純利益	2,859	3,281
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	17
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,849	3,263

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期 連結累計期間 2022年4月1日～ 2022年9月30日	当第2四半期 連結累計期間 2023年4月1日～ 2023年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,354	1,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,559	△6,065
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,543	5,184
現金及び現金同等物に係る換算差額	601	820
現金及び現金同等物の増減額	△60	1,654
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,509	33,483

(百万円未満を切り捨てて表示しています。)

詳細な財務情報は、当社Webサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

ベルーナ IR

■ 会社概要

会社名	株式会社ベルーナ (Belluna Co., Ltd.)		
資本金	106億12百万円		
創設	1968年9月		
設立	1977年6月		
従業員数	3,836名 (連結)		
事業内容	カタログ、ネット等による通信販売を核に、実店舗、受託、金融、プロパティ、卸売等の分野で展開する通信販売総合商社		

■ 役員

代表取締役社長	安野 清	社外取締役 (監査等委員)	山縣 秀樹
取締役	安野 雄一郎	社外取締役 (監査等委員)	渡部 行光
取締役	穴戸 順子	社外取締役 (監査等委員)	浜本 淳子
取締役	松田 智博		
取締役	宮下 正義		

■ 主な事業所

本社	(埼玉県上尾市)
本館	(埼玉県上尾市)
東京本部	(東京都中央区)
アネックスビル・第2アネックスビル	(埼玉県上尾市)
北関東支店	(埼玉県鴻巣市)
川越オーダーレセプションセンター	(埼玉県川越市)
春日部オーダーレセプションセンター	(埼玉県春日部市)
吉見ロジスティクスセンター	(埼玉県吉見町)
領家丸山流通システムセンター	(埼玉県上尾市)
領家山下流通システムセンター	(埼玉県上尾市)
宇都宮流通システムセンター	(栃木県鹿沼市)
大宮オーダーレセプションセンター	(埼玉県さいたま市)
A-GEOタウン	(埼玉県上尾市)
アリオボールオフィス	(埼玉県上尾市)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	260,000,000株
発行済株式の総数	97,244,472株
株主数 (除く自己名義)	37,638名

■ 大株主

	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社フレンドステージアセットマネジメント	41,383	42.7
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND(PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	5,879	6.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	5,303	5.4
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	3,128	3.2
安野 清	2,916	3.0
安野 公	2,914	3.0
株式会社三井住友銀行	2,246	2.3
野村信託銀行株式会社 (退職給付信託三菱UFJ銀行口)	1,968	2.0
ベルーナ共栄会	1,632	1.6
ベルーナ従業員持株会	1,075	1.1

※持株比率は自己株式 (545,205株) を控除して計算しています。

■ 所有者別株式分布状況

金融機関	個人投資家	事業会社	外国人
17.0%	24.2%	44.3%	14.5%

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

配当金受領 期末配当金 3月31日

株主確定日 中間配当金 9月30日

定時株主総会 毎年6月下旬

基準日 3月31日

株式の売買単位 100株

電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。

公告の方法

公告掲載 URL
<https://www.belluna.co.jp/irinfo/stock/announcement/>

株主名簿管理人

特別口座の口座

管理機関

株主名簿管理人

事務取扱場所

郵便物送付先

及び

お問合せ先

上場金融

商品取引所

みずほ信託銀行株式会社

東京都千代田区丸の内一丁目3番3号

みずほ信託銀行株式会社

本店証券代行部

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

TEL 0120-288-324 (フリーダイヤル)

東京証券取引所プライム市場